

輸出事業計画

※申請者名：(株)イケマコ・(有)池田誠商店、品目：米

1. 輸出における現状と課題

【現状】

- ・地域農家の受け皿として農地を借り受け規模拡大している。
- ・ドローンやAI、ICTを活用したスマート農業を取り入れ新しい農業の形を確立し、原料出荷だけにとどまらず生産者の顔が見える商品として販売できるよう、6次産業化にも力を入れている。
- ・未整備圃場を有効活用し、新規需要米として香港・マカオへ輸出を行っている。
- ・佐賀県や他県とのIT企業の連携事業により、試験圃場として様々なテスト栽培に取り組み、農作業の効率向上の実証実験なども積極的に受け入れている。

【課題】

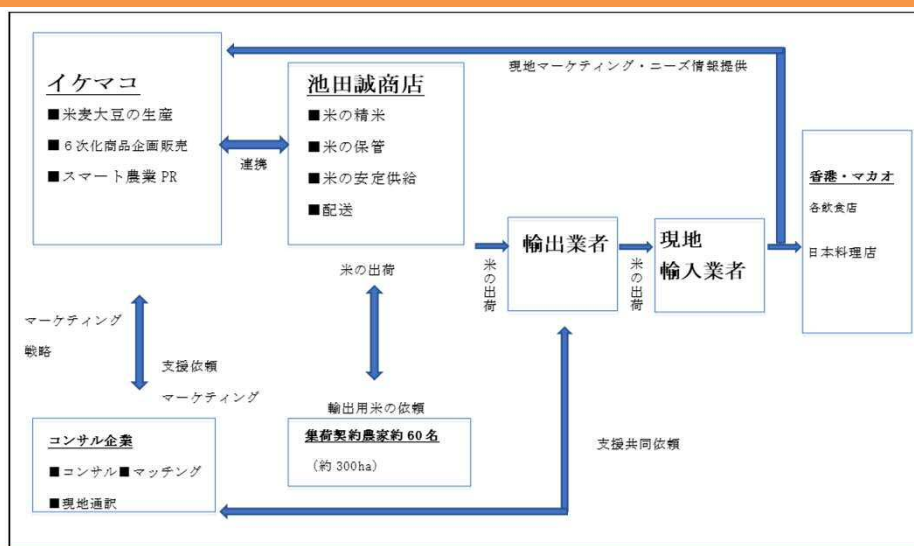
- ・輸出を拡大するためには大幅なコストの削減が必要である。
- ・適期収穫を徹底しているが、品質のばらつきがある。
- ・海外の飲食店や高級店では、オーガニックなどに需要があるが対応できていない。
- ・包装の手間や港への輸送のため、出荷から消費者までに時間がかかっている事で食味を落としている。

2. 輸出事業計画の取組内容

【取組内容】

- ・香港・マカオをメインとして、外食向けの高級日本料理店などの、中所得者層～高所得者層をターゲットとする。
- ・自動運転トラクター等のスマート農業機械を積極的に導入する等コスト削減を図るとともに輸出用米専用低温倉庫を導入することで品質の保持と安定供給できる体制を図る。
- ・今後、比較的輸入規制が少ない香港・マカオを、他県がターゲット輸出すると予測されるので、今以上に食味向上及びGAP（農業生産工程管理）、有機栽培など海外のお客様のニーズを考慮して、佐賀県産米だけでなく地域資源・地域ブランドの信用度向上に努めていく。

3. 輸出事業計画の実証と見直しを行うためのPDCA実施体制



4. 輸出目標額

※輸出先国と輸出する農林水産物・食品の現状及び目標金額を記載すること

		現状 (令和4年1～12月)	目標年 (令和9年1～12月)	備考
佐賀市南部 地区	輸出額(千円)	13,748	29,700	税込み価格
	輸出量(t)	46.3(うちマカオ13.8t)	約100(うちマカオ30t)	
	輸出先国	香港・マカオ	香港・マカオ等	
	生産量(t)	80	125	(株)イケマコ生産量